

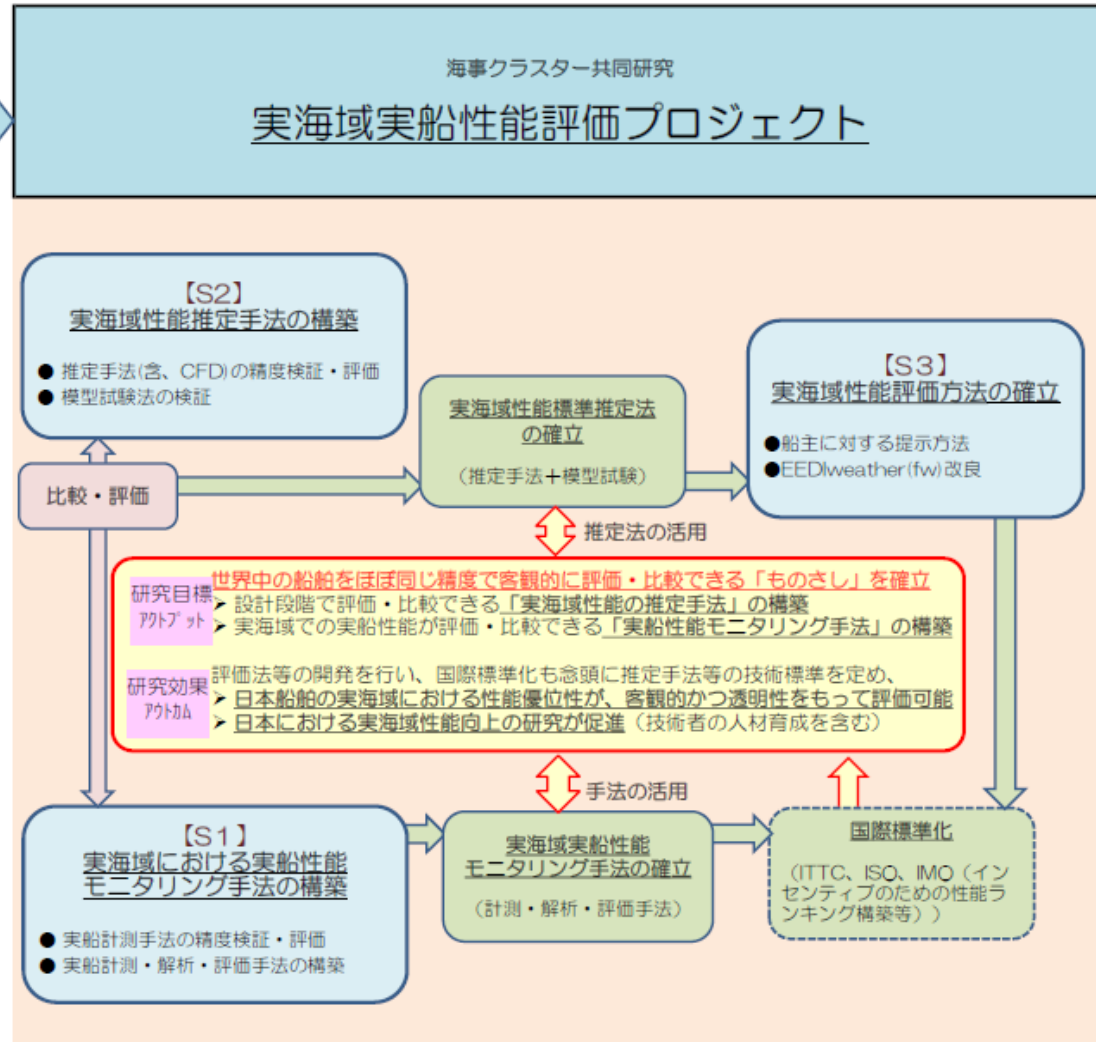
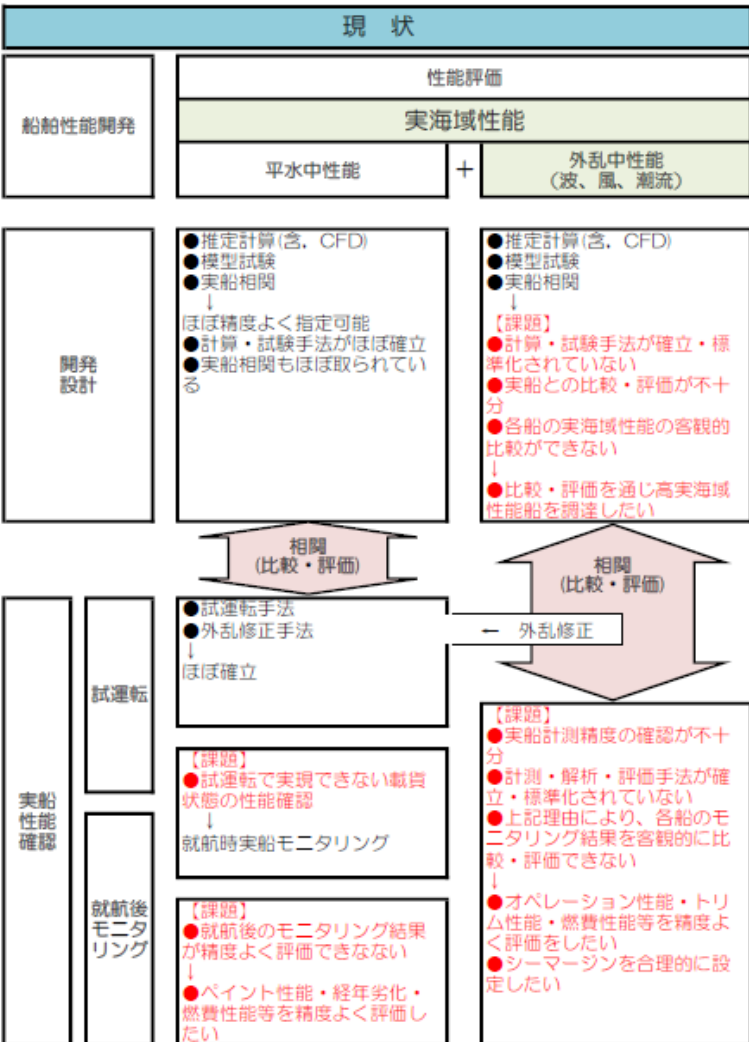
全体像
プロジェクトの目標・研究成果・課題

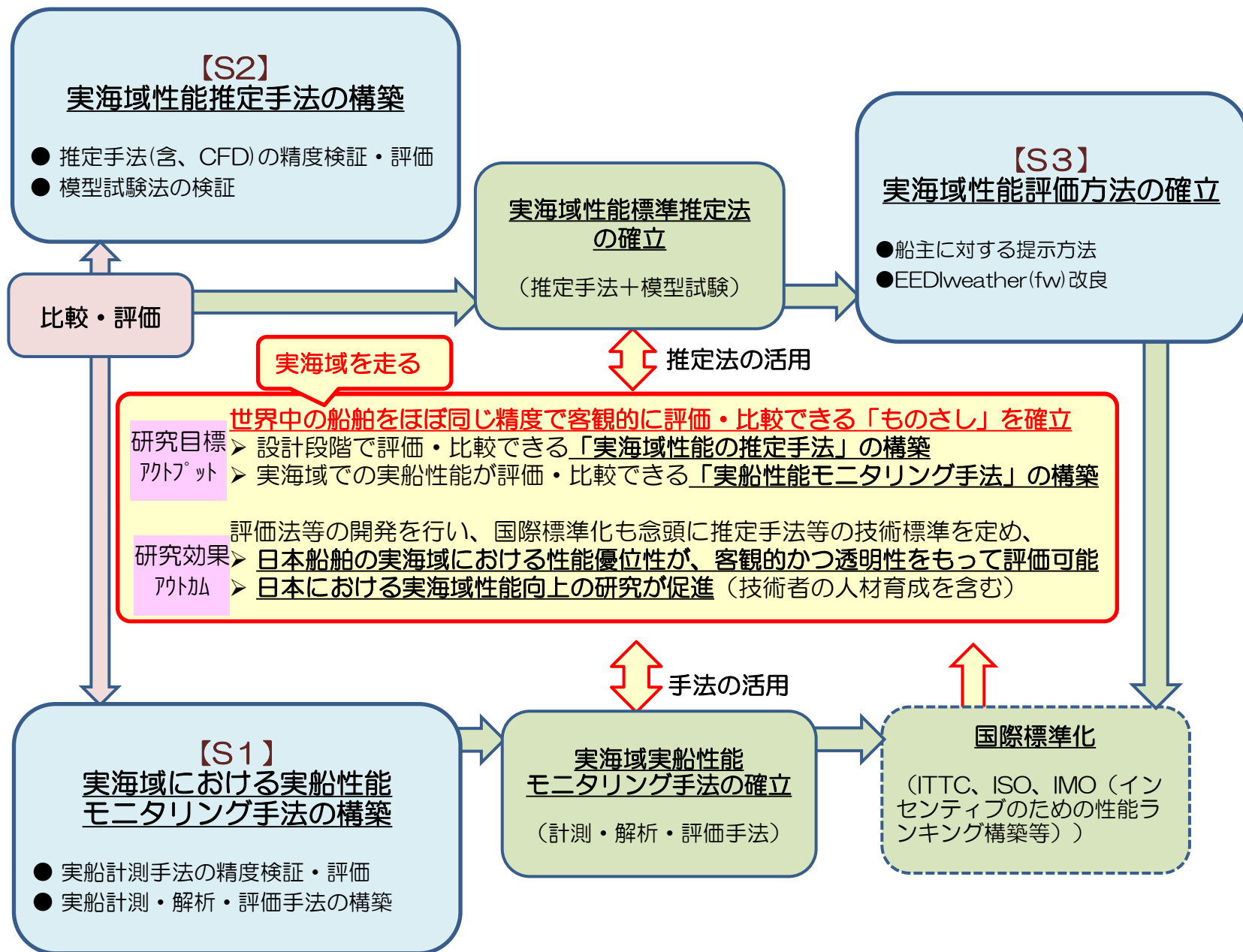
ステアリングコミッティー委員長 松本光一郎

1. 設立時全体構想

実海域実船性能評価プロジェクト：全体イメージ（案）

2017.4.19 委員長・副委員長





2. 3年間（2017年下期～2020年上期）の研究成果

S1-WG、S2-WG、S3-WGの各研究：

- 当初計画した研究はほぼ終了。
- 推定／計測／解析／評価手法はプログラム化も終了。

詳細の研究成果は後述。

3. 今後の課題

1) 研究成果の普及、次期研究開発課題の抽出

- 海運／造船業界、学会等への研究成果のPR。
- 設計／実船運航現場への適用と普及。
- コンピュータープログラム（推定／計測／解析／評価）の普及。
普及のため、基本プログラムは無料配布。フルセット版は有料販売（会員には無料配布）。
- 課題の次期研究へのフィードバック。

2) 国際標準化

- 本プロジェクトで開発された各種手法を、ITTC や ISO の（既存の）委員会での標準化活動の継続。
- ITTC／ISO 基準を引用した IMO での標準化が望ましい。
GHG排出量規制強化 ← 排出量の推定／実船計測への有効活用
→ 国際標準化が必要

3. 今後の課題

3) 今後の活動体制

1) 研究の成果の普及と継続／高度化、

2) 国際標準化

のために、下記体制での研究継続を提案中。

- 実海域実船性能評価会議（略称：OCTARVIA会議）
 - 継続活動全体のステアリング
 - 研究成果の取扱い（公開／販売／提供／維持）→適用／普及
 - 国際標準化対応
- 実海域実船性能評価プロジェクト研究会（略称：OCTARVIA2）
 - 研究成果／プログラムのブラッシュアップ（機能強化）
 - 研究の継続と将来課題の解決
 - 国際標準化のための研究

ご清聴ありがとうございました。